

オイスカ浜松国際高等学校 環境SDGsプロジェクト

高校生スポーツビーチクリーン実行委員会

取組概要

- 浜松市は自然が豊かですが、海岸には、ごみの不法投棄や漂流ごみ、砂丘の浸食、海岸林の松枯れ拡大など課題があります。
- 中田島砂丘を守るため、「中田島砂丘ごみひろい選手権」や「堆砂垣設置競争」など、楽しみながら参加できる「スポーツ・ゲーム形式」のビーチクリーン活動をしています。高校生の若いアイデアを活かして、海岸清掃のイメージ改革・普及啓発を進めています。



はじめたきっかけ

2001年から、中田島砂丘でアカウミガメの保全や海岸クリーン運動に取り組んできましたが、現在は東日本大震災の教訓から学び、“災害に強く美しい海岸を目指したEco-DRR活動に取り組んでいます。その活動を広げるため、官民との連携のほか、特に地域のつながり・輪を心掛けた活動を目指して「スポーツ・ゲーム形式」を考案し、試しながら活動しています。

ポイント

環境SDGsプロジェクトは、部活動ではないため、メンバーは部活動や生徒会活動と掛け持ちしながら有志で参加しています。スポーツビーチクリーンは、環境保全活動に楽しみながら参加できるよう工夫しています。また2022年には「高校生スポーツビーチクリーン実行委員会」を組織し、浜松市ビーチ・マリンスポーツ推進協議会に加盟するなど、活動を広げられるように取り組んでいます。

地域課題と取組成果

海岸でのごみ問題や砂丘の浸食、海岸林の松枯れ拡大といった課題に対して、高校生だけでなく、企業、市民活動団体、行政と協働して取り組んでいます。スポーツビーチクリーンの取組は地域からも好評をいただいております。外部評価が高まることで、学校全体での意識が高まり、生徒自身の自己肯定感に結びついています。参加者はごみを拾うことで「捨てない心」が育まれており、活動のリピーターが増えています。海岸浸食や松枯れ、ごみ問題への関心を持ってもらう普及啓発に一步一步前進しています。今後は自然豊かな浜松の魅力を発信するために、自然災害を学び、スポーツと健康、笑顔をテーマに、高齢者の方でも気軽に参加できる活動にしていきたいです。

●取組形態 有志メンバーで組織

●発足年 2019年

●メンバー数 160名

●HP URL <https://www.oisca.ed.jp/>

●環境SDGsプロジェクトについて教えてください。

環境SDGsプロジェクトでは、「スポーツビーチクリーン」をはじめ、災害に強い美しい海岸を目指した環境保全活動「浜と松プロジェクト」、浜名湖のマングローブ植栽実験やアマモの生態観察などをする「浜名湖ブルーカーボンプロジェクト」、海岸林の再生活動や学校林の保全活動などをする「森づくり大作戦」など、さまざまな活動に取り組んでいます。

●「スポーツビーチクリーン」では、どのようなことをしているのですか？

海岸や湖岸のごみ問題、海岸侵食など、地域の課題に対する環境保全活動に楽しみながら参加してもらいたいという思いから、2020年に企画しました。これまでに、野球部の提案で始まった「中田島砂丘ごみひろい選手権」、女子バレー部の協力で実現した「堆砂垣設置競争」、風で砂が飛び基礎があらわになった防潮堤に砂を運ぶ「中田島砂丘バケツリレー」、丈夫な松林を育てる「松葉かき選手権」を開催しました。



●活動を通じて、ご自身や周りにどのような変化がありましたか？

写真などで見ていた中田島砂丘と、砂が無く石やがれきだらけの風景とのギャップに驚きました。がれきによる景観の悪化、アカウミガメやカワラハンミョウといった生態系への影響、海岸侵食など、一カ所にたくさんの問題が集まっていることに気が付きました。活動を通じて、物事を多面的に見られるようになったと思います。また、部活動中に校外をランニングしていた際、道路のごみが気になって拾うこともありました。そうしたらいつの間にか部員みんなでごみ拾いしながらランニングしていました。テレビや新聞から取材を受け、私たちの活動を地元や全国に発信することで、周りの人にも良い影響を与えていると思います。他校の友だちから、「新聞を見たよ、そんな活動しているなんてすごいじゃん」という連絡があり、後日、話をしたら、彼女も家族と一緒にごみ拾いをしたり、一人でボランティア活動に参加したりするようになったと教えてもらいました。

●地域の課題を、「自分ごと」として考えられるようになったきっかけはありますか？

「地域の課題」をもっと広い視野で見ると、国際的、社会的な課題につながっていて、課題に興味がない人はいても、関係がない人は一人もいません。そういうマインドでみんな取り組んでいるのではないかと思います。活動を通じて生まれた仲間との絆や、新しい人間関係のつながりが、活動を続けるモチベーションになっています。

この活動がコミュニケーションのツールになっています。初めて堆砂垣設置競争に参加したときは、新一年生が入部したばかりで、話すきっかけにもなったし、結果的にチームとしての結束力が高まりました。「地域の課題解決のため」というと敷居が高くなってしまいうけど、カラオケに行くくらい自然になったらいいですね。

環境SDGsプロジェクトは、「活動したい」という意欲がある人が集まっているので、雰囲気非常に良いです。私たちは高校生なので勉強が大事ですし、みんな、部活動や生徒会など、それぞれに掛け持ちしているので、無理をするとパンクしてしまいます。誰かが事情があってしばらく参加できなくても、別の誰かが支えることで活動が回っています。今のこの空気感が、みんなが意欲的に取り組んでいる秘訣なのかもしれません。

